



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## ロータリー：変化をもたらす

RI会長 イアンH.S.ライズリー

2570地区ガバナー 細井保雄

第3グループ  
ガバナー補佐 木川一男

### 「RI戦略計画を皆で一緒に実行しよう!!」

## 第2777例会 2017.11.8

——ロータリー財団月間——

天候 雨 (NO. 54-19)

会長 和泉由起夫 幹事 土屋良一

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 吉島君、矢島(高)君

例会場：ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)974-3111(代) FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 和泉会長
- ・ソング 我等の生業
- ・米山記念奨学生 ラー・ピアッ・ザリさん
- ・卓話 伊藤弥寿彦様

### 【会長報告】

「四つのテスト」の由来、お目通し下さい。  
職奉委の皆様のお蔭で飯能の「(英語版)四つのテスト」がだんだん有名になって来ております。バーバート・テラーがS7年、シカゴのアルミニウム会社の再建を任された時に作成。S29年、RI会長就任時、著作権をRIに移譲、私達はこれをずっと提唱出来るようになりました。

ザリさんに奨学金を贈呈します(拍手)。  
◎ザリさん:先週金曜、東松山スリーデーマーチに奨学生100人以上と参加、10kmを目指して1日歩きました。天気も良く生き生きと歩けました。足と体が疲れたのですが、日本に来て米山記念奨学生になって初めての参加。BBQをやったり他地区の奨学生と交流したり、いろいろ経験する事が出来て楽しかったです。スリーデーマーチ40年目の記念日に初参加。歩くのは好きなので参加出来た事は素晴らしいと思います。ロータリアンの皆様のお蔭です。ロータリーの就職活動にも是非参加したいと思います。有難うございました。

### 【幹事報告】

11/12(日)「はんのう生活祭」に飯能RCとして初めてブースを出す事になった関係で、担当委員会の方は例会後にお集まり下さい。

### 【委員会報告】

◎親睦活動委員会 大崎君  
夜間例会、有難うございました。Xマス家族会のご案内を配付。ご参加お願い致します。

### 【結婚・誕生日祝】

田中親睦活動委員

- ◇入会記念日おめでとう  
山川君、吉島君、田中君
- ◇結婚記念日おめでとう  
伊澤君、田辺君、新井君、和泉君、橋本君、島田君、土屋(崇)君、細田(吉)君、細田(伴)君、安藤君、本橋君、沢辺君
- ◇会員誕生日おめでとう  
14 大崎君、18 吉田(武)君、28 奥富君
- ◇夫人誕生日おめでとう  
5 細田(伴)夫人、9 服部夫人、11 馬場夫人、14 新井夫人、15 平沼夫人、田辺夫人、20 齋藤夫人、24 大附夫人

### 【出席報告】MU・無届欠席0 馬場出席向上委員

会員数	当日	前々回修正
全数	対象	出席率
57名	6名	50名
		87.72%
		87.72%

### 【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・入会記念お祝い有難うございます。  
山川君、田中君
  - ・結婚お祝い有難うございます。細田(伴)君、橋本君、安藤君、新井君、細田(吉)君、島田君、田辺君、和泉君、土屋(崇)君、沢辺君、伊澤君
  - ・妻の誕生日お祝い有難うございます。  
細田(伴)君、新井君、田辺君、馬場君
  - ・伊藤さん、本日は卓話有難うございます。和泉君
  - ・誕生日お祝い有難うございます。  
吉田(武)君、大崎君、奥富君
  - ・高2砲丸娘、11/3 飯能市から表彰されました。頑張ります。大野(康)君
  - ・早退 島田君、杉田君
- 本日計83,000円、累計額429,001円。  
◎15日例会当番は吉田(行)、吉澤会員です。

## 【卓 話】

講師紹介

和泉会長

東京都出身。学習院高等科を経てミネソタ州立大学生物学部卒業。動物学・海洋生物の研究をされ、各地で講演活動、著作多数。自然史映像作家としてもご活躍。「NHKスペシャル」「ダーウィンが来た！」等、たくさんの番組を作っておられます。

## 二人の先祖の友情 ～伊藤博文と井上馨～

自然史映像作家・生物研究家 伊藤弥寿彦様

主にNHKの自然の番組のディレクション、プロデュースをしています。南極、アマゾン、ヒマラヤにも行きますが、ここ数年は明治神宮での仕事。どんな生き物がいるかを調査して「NHKスペシャル」を作りました。和泉さんとは「テレビ屋」仲間でその裏話でもしよつかと思つたのですが、趣向を変えて今日は先祖の話を含ませて頂きます。[映像併用]

高島嘉右衛門を含めると30分に収まらないので、ある時期の伊藤博文と井上馨、2人の盟友の関係についてお話しします。井上の兄・光遠の子(博邦)が伊藤の養子となったため2人には姻戚関係があります。私の、父方の祖父が博邦で、曾祖父が博文、祖母(たま)の父が高島嘉右衛門。高島は明治19年「易経」の解説書『高島易断』を出しましたが、実は実業家で、「横浜をつくった男」と言われています。新橋横浜間の鉄道計画、ガス灯点灯、埋め立て等、いろいろ行いました。

我が家にアルバムが1冊残されています。伊藤は天保12年(176年前)、周防国東荷村生まれ。幼名は林利助。父・十蔵、母・琴子。貧しい百姓で、十蔵が萩の伊藤直右衛門の所に入りするうち、可愛がられた利助は伊藤家の養子となります。16歳で松下村塾に入塾。身分の差無く誰でも活発に論議出来る気風があった。愛嬌のある利助は可愛がられ一目置かれるようになります。「俊輔」に改名。攘夷思想に染まり、19歳で江戸に派遣、品川の宿「土蔵相模」(長州藩攘夷派アジト)で井上聞多と出会います。井上は身分が高く、思い立ったらやらねばならぬという人だった。御殿山イギリス公使館焼討ちに高杉晋作等と参加。井上と伊藤は火付け役。井上は馴染みの女の部屋の額裏に爆弾を隠し、現場に着いて「わし、爆弾忘れた」と言ったそうです。行く手を竹垣が塞いでいると、伊藤が腰から鋸をスッと出したとの事。2人の性格の違いが出ています。後に伊藤は焼討ちした場所の近くに住んでいます(「開東閣」)。余談ですが、2014年、外国からの友人をたまたま宿泊させたマンションの前に「土蔵相模跡」とあって、因縁を感じました。

追われる立場になって井上が言ったのは「わしやエグレスに行くことと思う」。横浜の英国商人に密航の仲介を頼みに行くと「1人千両(5千万円)」との事。6百両しか持参していなかった井上は伊藤に相談。すると伊藤は「よし分かった。その代わりにわしも連れて行ってくれ」。江戸に長州の御用金が1万両ある事を伊藤は知っていたようです。この時、5人が密航。置手紙は「男子が万里の波濤を越えて行動を起こすと決めた以上、金がなくて志を果たせぬという事は誠に不本意です。御用金流用の件はなにとぞ生きた機械を買ったと思ってお許しください」。帆船2隻の1隻に山尾庸三、井上勝、遠藤謹助、ペガサス号に伊藤、井上。「何しに行きたいのか」と問われ「海軍(Navy)を学びたい」と言うべきところを「Navigation」と言い、「航海術」を学ぶ「水夫」として乗船する事に。千両払って過酷な労働と干し肉にビスケットの食事。嵐にも遭遇。帆船にトイレは無く、舳先に尻を突き出して用を足す。伊藤が下痢になり、井上は荒縄で伊藤の体を縛り縄を引っ張って、荒れ狂う海に伊藤が用を足すのを待っていたという井上の回顧録も残っています。全てをさらけ出すような付き合いをして、絆



が深まった事は言うまでもありません。4か月して辿り着いた英国は産業革命の只中。着いた瞬間悟ったそうです。「攘夷、到底無理」。あつと言う間に方向転換して彼らは大学(ユニバーシティ・カレッジ)に入ります。後に「長州ファイブ」と呼ばれる人達。半年後、新聞を読める英語力を身に付けていた彼等は、下関で長州が外国船に大砲を撃った事に対し、英仏蘭米4か国連合が長州を潰しにかかるという記事を見るわけです。伊藤と井上は留学を半年で切り上げ、1864(元治元)年に帰国、ここからが怒涛の5年間。英国公使オールコックと直談判。長州に戻り毛利の殿様を説得(身分の低い伊藤は同席は出来ず)。5時間説得した挙句、「売国奴」と罵られ、説得失敗。2か月後、4か国連合艦隊17隻が1時間で長州の大砲を殲滅、上陸して占領。幕府からは第1次長州征伐。幕府に謝罪し穏便に事を済ませようとする守旧派と新体制を作り倒幕しようという急進派とに長州藩内が分裂。翌年、井上が暗殺未遂で瀕死の重傷を負い、伊藤が枕元で看病しようとした時の、井上の言葉「春輔、わしはもうダメかもしれん。しかし今わしとお前が死ねば聞だ。お前だけでも生き延びよ。一人は生きていかねばならぬのだ」。この3か月後、高杉の奇兵隊が功山寺挙兵。一気に形勢逆転し、幽閉中の井上を救出、急進派が主導権を取って倒幕へ進んでいく。1865年の写真。高杉は結核で亡くなり、翌年、龍馬の仲介で薩長同盟が成立。その翌年、大政奉還。1868(明治元年)、伊藤は初代兵庫県知事となり「博文」と改名(27歳)。その後は怒涛の政治家人生。岩倉使節団として渡米、内閣総理大臣4回、枢密院議長、貴族院議長、韓国総督府統監。(正妻との間に男子が居なかったため養子となった)博邦は宮内庁式部局長官をしておりました。

伊藤と井上の友情はずっと続いています。明治41年、重病のため興津で療養していた井上を10日間枕元で見舞います。翌年、快気祝いの園遊会での伊藤の祝辞「井上と私が交際したのは50年前に私が18歳で江戸に出た時だった。以後50年間、時勢の推移や世帯の変化はあったが二人の友情は少しも変わらなかった。倫敦への密航から二人で帰った後、『井上が斬られて死んだ』との急報に接し、夜を日に継いで馬韓から山口に行った。井上は重傷で虫の息であったが『…貴様だけは何とかして生き延びろ。…早く馬韓に行け』と私に忠告した。50年の間に井上と私が火花を散らして争った事は数知れず、絶交しようとする考えた事もあった。しかしそれは国政上の意見を異にしたためで、私人同士の付き合いでは無二の親友であり続けた。昨年、井上は医師すら見放すような重病になったが今日この席で再び無事な彼を見る事が出来た私の喜びは申す言葉がありません。私は私一身の死生存亡よりもこの席で彼の昔ながらの声を聴き姿を見て万感交わり心緒麻の如く乱れざるを得ぬものであります。ここで言葉に詰まり一座は静まり返る。伊藤は涙が頬を伝ってむせび泣いているようであった。この5か月後に伊藤は暗殺されます。

ロシアの外相と韓国の問題について話し合うため満州ハルビンへ行くのですが、その2日前、伊藤は私のもう一人の曾祖父である高島嘉右衛門と呼ばれ「仮病になり行かないで頂きたい」と言われます。「艮為山(ごんいさん)」の卦の意味を伊藤も分かっていたはずですが、どうしても行くなら「山」とか「艮(根)」に近付かないようにとも言われていました。伊藤を撃った犯人は安重根という人でした。11月4日、日比谷公園での国葬。弔辞は井上。「君と出会ってから50年。体は違えど心は常に一緒だった。君との友情を私は永遠に誇りに思う。高島はその後40日間、閉じ籠もり、責任のある卦をしなくなったそうです。